



エイジ・バイクチェック風景

2019ITU世界トライアスロンシリーズ横浜大会

ダイバーシティなトライアスロンを満喫しよう エイジ審判長 海野 浩



SEA実施風景



キッズデュアスロン競技風景

WTS横浜大会のエイジレースは、気温25.6度、湿度も低くと、雨もなく寒くもなく、素晴らしいコンディションのもとで、総計1,537人の選手に楽しんでもらえました。完走率も95%を超え高いものでした。

WTS横浜大会エイジレースと一言で言っても、とてもダイバーシティで、朝一番でパラトライアスロンの競技があったり、海外からの選手のために英語説明会2回実施があったり、そして今年は土曜日のエリート終了後にキッズデュアスロンも実施しました。パラトライアスロンではTO(Technical Officialテクニカルオフィシャル/審判員)資格も持つメンバーがSEA(スイム・イグジット・アシスタント)という役割も行い、パラ選手の安全のためのサポートも行っています。

皆さん、WTS横浜の観客は何人かご存じですか？なんと2日間で46万人超です。沿道を埋める応援者や観光客の方に、安全にみていただくのも審判の重要な役割です。今年は、選手が来ることを知らせる旗を、わかりやすく黄色にしたりお立ち台を作ったりという工夫をしてみました。

今年のルール変更としては、スイムスキップ制度を正式に取り入れたことがあります。当日朝に申告をしていただき、スキップ希望の方は、バイクからの参加となりました。実際にスキップ制度を利用した方からは、「実はケガの傷が完治していない部

分があり、海に入りたくなかったので、スキップはありがたい」という声もいただきました。

毎年色々と運営を工夫していますので、選手の皆様には、「選手案内」は熟読し、選手説明会はきちんと聴くことをお勧めします。路面状況など最新のコース上の注意点や安全へのヒントや、当日まごつかない心構え、タイムを縮められるかもしれないコースの特徴などもTOが話をしています。

ぜひ、これからも安全に、そして多くの観客の前で、ダイバーシティなトライアスロンを楽しんでいただければと願っています。

.....